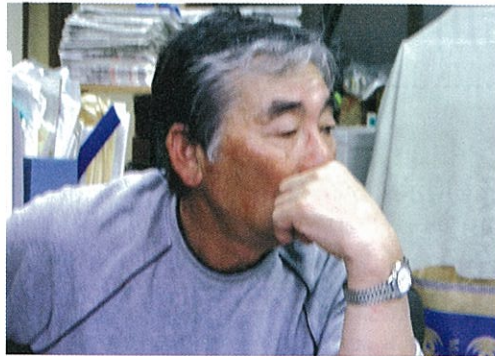


現場のプロに聞く

(その1 サンプルング技術)

鶴岡健剛さんの巻



鶴岡健剛さんのプロフィール

埼玉県川口市在住のボーリングオペレーター。昭和11年3月5日北海道空地郡生まれ。お父様は炭鉱技士。

昭和34年日本地下興発(株)の設立に、オペレーターとして参画。

6ヶ月の助手を経て、チーフに。その後同社は解散。

応用地質調査事務所(株)、東建産業(株)、基礎地盤コンサルタンツ(株)等の業務を担当。永く東建地質調査(株)の直営班としてご活躍。

平成元年アーステック(株)代表取締役。

平成3年チーフを退き、助手に専念。

現在も現役の助手として、また若手の指導者としてご活躍中。

ちなみに息子の雄二さん(36)も健剛さんに助手として練えられ、現在はチーフとして独立、子供の頃から健剛さんの現場を見て育ってきた筋金入りの技術者である。

——鶴岡さんはかつて「固定ピストンの鶴岡」として有名でしたが、今回はサンプルリングのことをいろいろ教えてください。最初の頃はどんなサンプラーを使っていたのですか。

鶴岡) いやさあ、最初から固定ピストンやデニソンはあったよ。俺が始めた頃にはもう普通に使われていたと思う。そのころに追い切りサンプラーが、たしか建設省の開発であつたりした。あとは、コンポジットとかを少し使って、オスタバグ、大口径やトリプルかな。今は、水圧式とデニソンと

トリプルくらいしか使う機会がないけれど。

——サンプルリングは誰かに習ったのですか。

鶴岡) いや、ボーリングは誰にも習わない。でも、最初の頃はさ、ペネなんか固い層に打ち込んだのをどうやってぬくんだらうと思ってさ、それで、隣で掘っているのを見ると叩き上げとかやっているので、あーあーやってぬくのかあと思うのよ(笑)。人には何も聞いたりしなかった。応用地質でチーフやっている頃は、俺のチーフは助手に人気があったのよ。昔のチーフはさ、助手にはレバーをさわらせなかったからさ。だけど、俺は助手にもどンドン掘らせたよ。うまくいなくても判らなくてもいいんだって、そのうち判るようになるんだから。まあ、注意して見てはいたんだけどね、地層が変わったりしないかとかを。ボーリングについて能書きたれてもさ、身体で覚えるしかないんだし、人を頼っても自分でやるしかないもの。

——では、鶴岡さんのサンプルリングには何かコツみたいなものはあるのですか。

鶴岡) 何もないよ。キチッとやるべきことをやる。それだけだよ。孔底までスライムをあげる。礫があるサンプルングではケーシングを押し込む。泥水はできるだけ薄くする。新しい泥水にする。今も昔も変わらない。いまでもデニソンは難しいと思うし、トリプルなんかもたまにやるとダメで、それでも特別なことは何にもしない。当たり前だけど、モノ(土質)を知ってないとうまくとれない。今はデータがいっぱいあるから本孔でも何とかなるけど、別孔の方がキチッととれると思うよ。人より多くサンプルが採れたのは現場で動いたからで、昔は歩合じゃないから、人はあまり働

かなかったんじゃないかな。10cm位しか入ってないライナーでも、お金をみると言われても、俺はいやだって。ダメなライナーは判るから提出しないので、サンプリングがうまいと思われたんじゃないの。人が採れないスカスカの(ゆるい)砂を全部取ったときはうれしかったけど、それもたまたまサンプラーが古くて、クリアランスがうまく合っただけだと思うよ。初めてトリプル(φ120mm)を使ったときは、ズータイがデカイわりに大したことねーなーと思ったけど、そのうちに固い砂がよく採れるようになったので、なかなかいいなと思う訳よ。新しい物好きでいろいろ買ったけど、何使っても手順をキチッと普通にやるだけだよ。今は道具を持ってないと干されちゃうし、俺なんかよりいい道具もってて、ぱりぱりやってる人がいっぱいいるんじゃないの。

——特に苦勞されたこととかはありますか。

鶴岡)特に苦勞した現場とかはないよ。みな同じ。苦勞したとか言うと、イクジガネーとか言われるから言わない。ケーシングとかの道具がないころは、無駄が多かったけど、そのころは根性で掘っていた、ほんと(笑)。ボーリングの仕事は苦勞の連続だけど、単価のこととかごちゃごちゃいってもしようがない。だからさ、俺はさ、ボーリングはガマンだっていうの。気候がよくて、通うのが楽で、近くにいいラーメン屋がある現場

はいいね。現場代理人が技術士の勉強して宿にずっといるもんで、その分発注者と仲良くなったりしてさ(笑)。

よくウルサイ現場に回されるし、ISOの審査官が現場を見に来たこともある。人と比べても仕方ないけどスカスカのコアを見たりすると、落ちぶれねえぞって思う。最近では動けなくなってきたから、できるだけ現場では働くようにしているだけだけどさ。

——最後に代理人への要望はありますか。
鶴岡)ダメなものはダメとはっきり言ってもらえると助かるね。

——キビキビとステージの上で働くオペレーターには、なかなか声をかけずらいものです。特に鶴岡さんの現場はそうでしたが、今度からは必要なことはキチッと伝えるように心がけたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(H13.5.11 川口にて、広報委員によるインタビュー)